

平成27年第1回定例会会議録（第7号）

平成27年3月23日

○出席議員（25名）

1番	森		大輔	君	2番	三	重	忠	昭	君
3番	手	束	貴裕	君	4番	野	上	泰	生	君
5番	森	山	義治	君	6番	穴	井	宏	二	君
7番	加	藤	信康	君	8番	荒	金	卓	雄	君
9番	松	川	章三	君	10番	市	原	隆	生	君
11番	国	実	久夫	君	12番	猿	渡	久	子	君
13番	吉	富	英三郎	君	14番	黒	木	愛一	郎	君
15番	平	野	文活	君	16番	松	川	峰	生	君
17番	野	口	哲男	君	18番	堀	本	博	行	君
19番	山	本	一成	君	20番	永	井		正	君
21番	三ヶ	尻	正友	君	22番	江	藤	勝	彦	君
23番	河	野	数則	君	24番	泉		武	弘	君
25番	首	藤		正君						

○欠席議員（0名）

○説明のための出席者

市	長	浜 田	博 君	副 市 長	中 尾	薫 君
教 育 長	寺 岡	悌 二 君	水道企業管理者	永 井	正 之 君	
総 務 部 長	伊 藤	慶 典 君	企 画 部 長	釜 堀	秀 樹 君	
建 設 部 長	岩 田	弘 君	ONSENツーリズム部長	大 野	光 章 君	
生 活 環 境 部 長	浜 口	善 友 君	福祉保健部長 兼福祉事務所長	湊	博 秋 君	
消 防 長	笠 置	高 明 君	教 育 次 長	豊 永	健 司 君	
政策推進課長	稲 尾	隆 君				

○議会事務局出席者

局	長	檜	垣	伸	晶	参事兼庶務係長	宮	森	久	住	
次長兼議事係長	浜	崎	憲	幸	次長兼調査係長	河	野	伸	久		
主	幹	吉	田	悠	子	主	査	溝	部	進	一
主	査	波多野			博	主	任	甲	斐	健太郎	

○議事日程表（第7号）

平成27年3月23日（月曜日）午前10時開議

- 第 1 行財政・議会改革等推進特別委員会委員長報告
- 第 2 市有財産利活用推進特別委員会委員長報告
- 第 3 上程中の議案に対する予算特別委員会委員長報告、討論、表決
- 第 4 議第50号 人権擁護委員の推薦につき議会の意見を求めることについて
- 第 5 報告第 1号 別府市新型インフルエンザ等対策行動計画の作成について
報告第 2号 市長専決処分について
- 第 6 委員会提出議案第 1号 別府市協働のまちづくり推進条例の制定について
委員会提出議案第 2号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について
委員会提出議案第 3号 別府市議会議員の政治倫理に関する条例の一部改正について
- 第 7 議員提出議案第 1号 別府市議会委員会条例の一部改正について
議員提出議案第 2号 ドクターヘリの安定的な事業継続に対する支援を求める意見書
議員提出議案第 3号 憲法違反の集団的自衛権行使の法制化の中止を求める意見書

○本日の会議に付した事件

日程第1～日程第7（議事日程に同じ）

午前 10 時 00 分 開会

○議長（吉富英三郎君） ただいまから、継続市議会定例会を開会いたします。

本日の議事は、お手元に配付しております議事日程第 7 号により行います。

日程第 1 により、行財政・議会改革等推進特別委員会の審査の経過と結果について報告を願います。

（行財政・議会改革等推進特別委員会委員長・河野数則 君登壇）

○行財政・議会改革等推進特別委員会委員長（河野数則 君） 行財政・議会改革等推進特別委員会は、平成 23 年第 3 回定例会で、行財政改革・議会改革及び防災対策等に関する調査・検討及びその意見反映を図るために設置され、「行財政改革に関すること」「議会改革に関すること」「危機管理・防災対策に関すること」を大きな柱として掲げ、具体的な改革並びに行財政のあり方について調査・検討をスタートいたしました。

以来今日まで、当特別委員会において 25 回の議論を重ねてまいりましたが、議会改革に関して委員みずからが提案し、また、行財政改革に関しては、執行部からの説明に対し、各委員から出された意見・提言等について方向性が示されましたので、御報告をいたします。

東日本大震災を契機とした「危機管理・防災対策に関すること」については、平成 23 年度危機管理・防災対策の結果報告や別府市防災計画素案の概要、津波対策等、常に執行部側からその進捗状況の報告を受けながら、当特別委員会として意見を述べております。

この「危機管理・防災対策に関すること」と並行して、最優先に取り組んだ項目が「議会改革に関すること」であります。

まず議会改革につきましては、「市内旅費の費用弁償の廃止」を決定し、平成 24 年度より実施されたところであります。

次に、常任委員会の削減・統合につきましては、前回の統一地方選挙より、議員定数を 4 名減といたしましたが、より慎重な委員会審査を行うべく、4 常任委員会を 3 常任委員会に削減・統合し、委員会での提言事項等を検証するため、任期を 2 年とすることを全員一致で決定し、平成 25 年 3 月定例会より実施した次第であります。

続いて、当初予算（案）に関しましても、一昨年の 3 月定例会において、「予算特別委員会」を新たに設置し、会派代表者質問、個人質問を議員全員で審査することを決定した次第であります。

次に、「市民と議会との対話集会の開催」についてであります。

議会報・ホームページ委員会の名称、構成員等を改め、新たに設置する広報広聴委員会において対話集会の進め方を検討いたしました。

平成 25 年度には、中央公民館を含む各地区公民館の 6 会場で、26 年度においては、全員が 4 班に分かれ、町内公民館等の 8 会場で開催し、延べ 254 名の市民が参加され、御意見をいただきました。

また、参加者より要望のあった特に地域の危険箇所等については、当局とともに現地調査を実施した次第であります。

さらに、参加された皆様からの御意見に対し、全議員での報告会を開催した後、意見や要望をまとめた報告書を議長から市長へ直接手渡すとともに、その内容を議会ホームページに掲載をいたしました。

議会改革に関しましては一端終了し、行財政改革を行うべき事項について、「水道局の合理化」「競輪事業の改革」「職員の定員管理」、以上 3 件について当局より現状報告を受け、延べ 9 回の審査を重ねてまいりました。

まず、「水道局の合理化について」であります。委員より、市民の利便性を考慮する際、上下水道の一元化による組織機構の再編を研究してはとの意見に対し、デメリットもある

ものの、見込まれる効果としては、共通の情報が上下水道まとめて処理できることから、事務の効率化が図られる。

また、技術部門に関しては、一体的な計画並びに発注が可能となり、経費の節減が見込まれる。

さらに、サービス面についても、窓口の一本化により市民サービスが向上することが期待されるものとの説明を受け、今後、上下水道の一元化についての検討を鋭意進めてほしいとの意見がなされました。

次に、職員の人材育成の対策についてであります。職員が平成 30 年度以降、3 年間で 22 名もの大量退職を迎える中で、特に「経験からくる技能力・技術力の低下」が危惧されることから、技術部門における職場内外の研修などによる人材育成や水道局OBの活用など、技術力の低下を招かないように進めていくとの答弁がなされました。

次に、平成 25 年 1 月に現状の報告を受けた後、26 年度現在での業務委託の進捗状況等についての説明を求めました。

まず、料金の徴収事務の委託範囲の拡大として、水道メータの再検針業務、引っ越しなどにより水道料金を精算する臨時検針業務、窓口収納業務をすべて委託し、平成 26 年度より既に実施しているとの説明を受けました。

次に、朝見浄水場の交替制勤務の委託化であります。

1 日 24 時間、各配水池の貯水量などの監視業務を一部の施設を除き、朝見浄水場で一元的に監視しているが、現在、この業務の委託化に向けた具体的な作業にかかり、27 年 4 月より実施する予定である。

そのほか、組織機構の見直しなどの検討を現在進めているとの説明を受けた次第であります。

また、東日本大震災を機に、新エネルギーとして、市内においてバイナリー発電が行われることを受け、地熱発電の冷却水を地下水に求めるのではなく、水道水を使用していたくために、全国初となる地熱発電給水の用途を新設し、地下水の保全、ひいては温泉の保護が図られると同時に、収益の増収が図れることから、その増収分の一部を区営・地区温泉の水道料金の減額に充てることで、「区営・地区温泉の運営の一助につながっていく」との説明がなされました。

続きまして、「競輪事業の改革について」であります。

委員より、開催経費の節減、周辺対策などに関してさまざまな意見・要望がなされましたが、まず節減可能な運営経費及び民間委託の導入が可能な業務を精査し、早急に移行を図るべきであるとの意見に対し、専門性の強い部分から業務委託を行ってきた。具体的には、駐車場全般の整理、場内の一部警備を警備会社に、清掃は清掃会社に一部委託したが、車券発売等に伴う従事員については、平成 11 年度以降採用しておらず、高齢化等による退職のため、26 年度には 10 名程度の採用を行うが、従事員の減員により厳しい体制であることから、発売車券・支払いの窓口数を絞り、経営努力を行っている。

また、入場客の利便性の向上を図る上で、集客制度の基本となる交通アクセスの改善や渋滞の緩和策について、現時点では停滞での状況であるが、新規顧客獲得のためのファンサービスについては、年 1 回のファン感謝イベント、初心者教室などを行い、誘致を促している。

さらに、ビッグレースの開催を行うことで、車券発売の増収が期待できるとともに競輪事業の活性化につながることから、数年前より GⅡクラスの全日本プロ選手権自転車競技大会記念競輪の誘致活動を続けており、3 日間開催のうち、1 日はオリンピック種目であるスプリント競技など、一流選手が繰り広げる姿をファンや市民の方々にぜひ見ていただきたいとの説明を受けた次第であります。

なお、この記念競輪については、日本競輪選手会の御了承をいただき、平成 27 年度開催予定とのことであります。

次に、周辺対策についてであります。委員より、競輪事業は戦後復興のための特例で認められたが、戦後復興も終わり、収益の使い方を抜本的に変える必要がある。開催日の際に、車の離合や人の通行に支障をきたすため、競輪場周辺の踏切など 3 カ所の改修を以前より要望してきたが、収益のほとんどを一般会計に繰り入れ、地元対策がなされていないのではとの意見を受け、今後は計画的に順次改修することについての要望がなされました。

また、委員より、義務的経費である選手賞金や関係団体等への交付金である J K A 交付金については、各競輪施行者と連携し、交付率引き下げに関する陳情活動等を今後も継続して行う旨要望がなされた次第であります。

続きまして、「職員の定員管理について」であります。

委員より、第 2 次適正化計画で、行政経験、豊富な知識をもった退職者の再雇用を考えていくということであるが、再雇用者が重要な仕事を担う中、正規職員数 129 名の削減は、現在の状況から勘案すると危惧するものであるとの質疑がなされ、今後、正規職員が減少していく中で、非正規職員に求められる役割は非常に広範囲に及ぶものになっていくことが想定されるが、豊富な人生経験と職務経験による即戦力への期待であり、特に公権力の行使が求められる部署については、個別の事例で困難なケースもふえていることから知識と経験を持った職員が必要とされる。

O B の任用については、職務能力の判定をしたうえで、正規職員として配置ができる再任用職員として任用する必要がある、市民サービスの低下を招くことのないようにしていきたいとの答弁がなされました。

また、委員より、定員管理の数字としてあらわれるのが正規職員だけであるが、全体では約 3 分の 1 は臨時、非常勤職員であり、非正規職員の定員計画も示した上で計画を立てるべきとの質疑に対し、類似団体の区分が見直され、類団の状況も含め、適宜計画の進捗状況及び実際の業務状況を加味し、見直しを検討いたしていくとの答弁がなされた次第であります。

さらに、当局より、平成 24 年 8 月に人材育成型人事制度を構築し、採用、異動、昇任・降任、研修、勤務評定の 5 つの制度を柱に「長期的」「戦略的」視点に立ち、計画的に職員の人材育成を進めていくなどの説明を受け、各委員より、試行的に始めた人事評価の勤務評定や採用試験の面接など、るる質疑がなされました。

まず、勤務評定の目的についてであります。職員の人材育成のための一つの手法と位置づけ、管理職が部下職員の職務の状況を把握するとともに、積極的にコミュニケーションをとり、客観的事実として勤務評定を行うものである。

次に、採用試験についてであります。

国、県や他市と併願するケースが多く、いかに優秀な人材を確保することが課題となる。

筆記試験で点数は取れても、採用後、市民への対応が十分に行えないなどの問題も出ており、面接試験を重視するほか、専門知識や資格を有する者、職務経験のある者を積極的に登用していく。

なお、人物重視ということで、面接の際に地域行事の参加などについても聞き取りを行っているとの答弁がなされました。

さらに、平成 26 年度現在の進捗状況の報告を受け、コスト面でのデメリットはあるものの、さらなる市民サービスの向上を図るため、窓口業務等の委託化について検討するよう要望がなされた次第であります。

以上、行財政改革にかかる 3 件の項目につきましては、そのほか、るる意見・要望がな

されましたが、さらなる行財政改革の推進を図るべく当局へ申し入れた次第であります。

行財政改革に関する審議終了後、議会改革に関して、再度協議を行うこととしました。

まず、議決結果の賛否の公表及び政務活動費の公開についてであります。

全国の議会改革においても議会情報の公開が主要な位置づけとなっており、また、全国的に政務活動費の支出についての問題が浮上し、その透明性の確保がより求められることとなりました。

そこで、広報広聴委員会からの提案により、当特別委員会で議決結果の賛否の公表、政務活動費の公開について協議がなされ、全員一致で決定された次第であります。

議決結果の賛否につきましては、昨年 の第4回定例会分より、市議会ホームページ、市議会だよりにおいて既に公表いたしております。

政務活動費につきましては、ホームページにて、平成26年度分より、公開予定であります。

また、先般開催の当特別委員会において、予算特別委員会を設置することについて発議した経緯もあり、決算特別委員会においても、詳細については来期にて御協議願ひ、議会選出の監査委員を除く議員全員で審査を行う旨、全員一致で了承を得たところであります。

最後に、今期定例会において当特別委員会の委員会提出議案として、条例の制定及び一部改正の計3件を上程予定でありますので、詳細について御報告いたします。

「別府市協働指針」が昨年6月に策定されましたが、協働のまちづくりの推進の取り組みは、先進的な自治体と比較した際、さらなるスピードアップが必要であるという観点から、昨年6月開催の当特別委員会において、別府市協働のまちづくり推進条例の制定についての提案がなされました。

本条例は、協働のまちづくりを総合的かつ計画的に推進し、もって魅力と活力のあふれる地域社会の形成に資することを目的に、別府市議会初の政策条例として、当特別委員会において協議するとともに、市議会ホームページ等でパブリックコメントを募集し、修正を重ね、その案をもって全員一致で賛成をいたしました。

次に、議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正についてであります。

平成26年人事院勧告及び大分県人事委員会勧告による「給与制度の総合見直し」並びに「特別職の職員の給与に関する法律の一部改正」に伴い、市長は、市長及び副市長の給料の引き下げについて、「別府市特別職報酬等審議会」への諮問を決めました。報酬審議会の開催を前に会派代表者会議を開会し、議員報酬については諮問せず、議会みずからの意見を集約し見直しを図るということで、全会一致を受け、当特別委員会において報酬月額及び政務活動費の減額について協議を重ねました。

その結果、報酬月額については、他市議会の状況等も勘案いたしましたが、議会改革の一環として、県内では別府市議会が唯一の改正となりますが、最終的に3%減額することで、全員一致で決定をし、政務活動費については、地方分権一括法の施行等により、地方議会や議員の活動が重要となったことから、現状維持とすることといたしました。

最後に、別府市議会議員の政治倫理に関する条例の一部改正であります。

地方自治法第92条の2に規定される「兼業の禁止」の趣旨を尊重し、議員の関係企業に対し、市の契約に対する遵守事項として、「請負契約等の辞退」を規定することにより、市民に疑惑の念を持たれぬよう努めるとともに、議員の政治倫理のより一層の向上と確立を図り、市民に信頼される議会づくり、より開かれた議会を目指すことを目的に、条例の一部を改正することで、全員一致の賛成を得たところであります。

以上、3年6カ月にわたり「行財政改革に関すること」「危機管理・防災対策に関すること」については、意見・要望を申し述べてまいりましたが、まず、議会みずからができること

から最優先に取り組んだ「議会改革に関すること」については、全委員よりさまざまな改革に関する意見が述べられました。また、委員全員で決定をし、さらに議会全員で実行に移すことにより、一定の成果が得られたものと考えております。

この改革につきましては、改選前の平成 21 年 1 月から 6 年数カ月にわたり、さまざまな項目について協議を行うとともに、御協力いただいた議員の皆様方はもとより、浜田市長を初め職員の皆様方、委員会運営を支えてくれた議会事務局の職員の皆様方にお礼を申し上げ、行財政・議会改革等推進特別委員会の委員長報告といたします。(拍手)

○議長（吉富英三郎君） 以上で、行財政議会改革等推進特別委員会委員長の報告は終わりました。

次に、日程第 2 により、市有財産利活用推進特別委員会の審査の経過と結果について報告をお願いします。

（市有財産利活用推進特別委員会委員長・松川峰生君登壇）

○市有財産利活用推進特別委員会委員長（松川峰生君） 当特別委員会は、平成 25 年第 4 回定例会において、公共施設・遊休資産などの有効活用に関する諸問題について調査・検討を図ることを目的に設置されました。「公共施設の再配置」「学校統廃合による跡地利用」「遊休資産の利活用」を大きな柱といたしました。

まず、公共施設の現状把握と委員の共通認識を持つことを目的に、「学校統廃合」「市営住宅」の現状並びに「公共施設白書」「公共施設マネジメント計画支援報告書」の説明を受けました。市では、平成 25 年 5 月に「公共施設白書」を、平成 26 年 3 月に「公共施設マネジメント計画支援業務報告書」を作成し、その中で本市の公共施設の全体像と将来の改修・更新費用などが明らかになりました。あわせて、今後の取り組みとして公共施設マネジメント基本方針、中長期保全計画、施設整備・管理運営方針、適正化計画を段階的に策定していくことが示されました。

そこで、市有財産の利活用に関連し、本委員会において出された意見などについて、御報告申し上げます。

最初に、数値目標の設定についてであります。

今後、人口減少や超高齢者社会の進行に伴い、税収入等の財源確保が困難になり、従来の維持管理ができなくなることが明白であります。施設数や経費削減に向けた全体の目標値を定めた上で、個別の事業計画を策定し、計画の実効性を確保すべきと考えます。

次に、まちづくりを踏まえた再配置についてです。

公共施設の再編は、統廃合などによるコスト削減が注目されがちですが、基本的には将来にわたるまちづくりと考えます。将来の人口分布や利用需要などを総合的に勘案する中で、地域の特性や施策推進上の位置づけを考慮し、市民生活に混乱を及ぼさないよう十分配慮する必要があります。さらに、総合計画などとの整合性を図りながら、全庁的なコンセンサスを得る組織体制の構築が必要と考えます。

次に、公共施設の削減、再配置などの考え方や手法についてです。

本特別委員会が調査した鎌倉市では、市民参加組織としてモニター制度を設置、市民ワークショップの開催などを通して、その意見を審議に反映させております。また、民間活力の導入や協働に伴う市民活力を生かした維持管理にも重点が置かれておりました。以上の点を踏まえ、今後の整備・運営方針の策定に向けて審議、検討を望むものです。

次に、財政措置についてです。

公共施設の再編などには、多大な経費が予想され、将来を見据えた財政措置を早急に講じなければならないとの意見がなされたのに対し、昨年第 3 回定例会にて、来るべき再編に備えるものとして、「公共施設再編整備基金」が設置されました。将来の負担を軽減するため、国などの補助金を有効的に活用すべきと考えます。

最後に、議会としても、市民に対する説明責任を果たす責務が生じてまいります。今後とも、引き続きマネジメント計画の進捗に合わせ、調査研究を進めるとともに、より一層の議論・検討を重ねる中で、執行部に対して意見を具申し、議会の役割を果たしてまいりたいと考えています。

以上、市有財産利活用推進特別委員会の委員長報告とさせていただきます。(拍手)

○議長（吉富英三郎君） 以上で、市有財産利活用推進特別委員会委員長の報告は終わりました。

次に、日程第3により、上程中の議案20件に対する予算特別委員会の審査の経過と結果について報告をお願いします。

（予算特別委員会委員長・堀本博行君登壇）

○予算特別委員会委員長（堀本博行君） 予算特別委員会は、去る3月4日第1回市議会定例会本会議において付託を受けました議第8号平成27年度別府市一般会計予算ほか、予算関係議案8件、及び議第19号特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、ほか、条例関係議案10件の計20議案について審査をするため、3月11日、12日の2日間にわたり委員会を開会し、会派代表者質問並びに個人質問において、質疑による慎重な審査を行いましたので、当委員会での意見と審査結果について御報告を申し上げます。

まず、議第8号平成27年度別府市一般会計予算についてであります。

最初に、自主財源の確保についてであります。

当市の歳入における国県支出金、地方交付税などの依存財源は、高い割合にあります。平成27年度の予算編成においても依存財源の割合が高く、市税等の自主財源の確保が緊急の課題だと考えます。

今後、人口減少・超高齢社会を迎えるに当たり、総合戦略を策定する中で、自主財源が確保できる施策を進めるべきと考えます。

次に、補助及び交付金についてありますが、昨年の決算特別委員会において、各団体等に対する補助金等の交付に係る成果を示すことで、透明性の確保と費用対効果の向上が、決算認定の附帯決議として議決をされました。補助金等の交付目的は、公益に資することであり、団体の自立により市民との協働が促進され、真に人材の育成や成果が上がるべきものと考えます。

今後、別府市協働のまちづくり推進条例の施行に伴い、「推進委員会」においても議論していただき、より有効的な補助金制度を確立すべきものと考えます。

次に、健康寿命を延伸する取り組みについてであります。

人口減少・超高齢社会の到来により、より厳しい財政運営が迫られる中で、高齢者の健康づくりを推進する取り組みを、行政の最重要施策と位置づけ、全庁的な推進体制のもとであらゆる行政資財を活用し実施すべきものと考えます。

次に、民生委員・児童委員に対する取り組みについてありますが、ひとり暮らしの高齢者の増加や青少年問題が複雑化する今日、民生委員・児童委員の職務が増加傾向にあります。県に増員を求めるとともに、職務の整理を行って、委員の負担軽減に努めるべきと考えます。

次に、中心市街地活性化に対する取り組みについてであります。

旧近鉄跡地については、活性化計画において、民間施設の核と位置づけられています。その活用については、土地所有者等と十分協議をする必要があると考えます。

また、まちなか交流会館については、国際交流プラザの移転や別府インターナショナルプラザとの協働も視野に入れ、有効活用を図るべきと考えます。

次に、観光に対する取り組みについてであります。

インバウンド時代を迎えるに当たり、外国人旅行者の受け入れ体制として、インフォメーション機能を高め、質の高いサービスを提供することが必要と考えます。

次に、公共施設に対する取り組みについてです。

市営温泉において慢性的な赤字経営の施設は、利用者負担のあり方も踏まえて抜本的に管理運営を見直さなければならないと考えます。

また、野口原陸上競技場並びに実相寺多目的グラウンドについては、ラグビーワールドカップ開催も見据えて、施設整備を検討すべきと考えます。

また、施設整備に関しては、利用団体と協議の上、年次計画を持って行うべきと考えています。

次に、人と猫が共生するまちづくりに対する取り組みについてであります。

事業実施に際しては、活動グループが核となると思われます。環境美化が最大の目的であり、住民トラブルがないように、制度の周知徹底を図る必要があると考えます。

次に、合併浄化槽に対する取り組みについてであります。

現行の公共下水道事業の発展的継続は厳しいと考えます。公共の合併浄化槽への政策転換を早い段階で図るべきと考えます。

次に、学校いきいきプランに対する取り組みについてであります。

近年、特別な支援が必要な児童が増加傾向にあり、その対応が求められています。教育現場での声を十分に聞いて、素早い対応で取り組むべきと考えます。また、その現状と必要性を国・県に積極的に伝えるべきであるとも考えております。

次に、議第 9 号平成 27 年度別府市国民健康保険事業特別会計予算、並びに議第 14 号平成 27 年度別府市介護保険事業特別会計予算については、健康寿命を延伸する取り組みを積極的に実施することが、医療費等の抑制につながり、財政の健全化に資すると考えます。

次に、議第 16 号平成 27 年度別府市水道事業会計予算についてであります。

人口減少・高齢化により、水道事業も厳しい時代を迎えます。水道局と市長部局の財政状況を総括的に考え、相互連携の上、適切な負担による経営基盤の強化を図り、経営の健全化を促進すべきと考えます。

以上、多くの意見がなされたのに対し、採決の結果、議第 8 号平成 27 年度別府市一般会計予算、議第 9 号平成 27 年度別府市国民健康保険事業特別会計予算、議第 10 号平成 27 年度別府市競輪事業特別会計予算、議第 12 号平成 27 年度別府市公共下水道事業特別会計予算、議第 14 号平成 27 年度別府市介護保険事業特別会計予算、議第 16 号平成 27 年度別府市水道事業会計予算、議第 19 号特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、議第 33 号別府市介護保険条例の一部改正について、以上 8 件につきましては、一部委員から反対の意思表示がなされましたが、賛成多数をもって原案のとおり可決をした次第であります。

続きまして、議第 11 号平成 27 年度別府市公共用地先行取得事業特別会計予算、議第 13 号平成 27 年度別府市地方卸売市場事業特別会計予算、議第 15 号平成 27 年度別府市後期高齢者医療特別会計予算、議第 20 号特別職の常勤職員の給与及び旅費に関する条例等の一部改正について、議第 21 号別府市職員の給与に関する条例等の一部改正について、議第 22 号別府市職員の退職手当に関する条例及び別府市立学校職員の退職手当に関する条例の一部改正について、議第 24 号別府市手数料条例の一部改正について、議第 25 号別府市立学校の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議第 26 号別府市重要文化的景観整備事業分担金徴収条例の制定について、議第 28 号別府市保育所の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議第 32 号別府市国民健康保険税条例の一部改正について、議第 42 号別府市水道局企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について、以上 12 件につきましては、全会一致で原案のとおり可決すべきと決定をしたと

ころであります。

以上で、当委員会に付託を受けました議案 20 件に対する意見と審査結果の報告を終わります。

議員各位の御賛同をお願い申し上げます。(拍手)

○議長（吉富英三郎君） 以上で、予算特別委員会委員長の報告は終わりました。

少数意見者の報告はありませんので、これより討論を行います。

討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

(12 番・猿渡久子君登壇)

○12 番（猿渡久子君） 私は、日本共産党議員団を代表して、議第 8 号、第 14 号、第 19 号、第 33 号に対する反対の討論を行います。

まず、議第 8 号平成 27 年度一般会計予算についてであります。

歳入では、市民所得が前年比 0.57%の伸びであるだけで、個人市民税も 0.65%の伸びにとどまり、低迷、横ばい状態が続いています。地方交付税も国・県支出金も合わせて約 6 億 7,700 万円も減っており、地方消費税交付金が約 5 億 2,700 万円、41.7%もふえていただけです。これは、第 2 次安倍内閣になってから 2 年以上が経過しましたが、市民にとってはいわゆるアベノミクスによる経済の好循環ではなく、消費税増税の負担だけがふえていることを示しています。

歳出では、広域行政に要する経費、藤ヶ谷清掃センター管理運営費の負担金 3 億 9,371 万円に反対です。不明朗な入札による高過ぎる負担金だからです。

また、水道事業への繰出金が、水道料金に転嫁すべきでない安全対策費を計上していないことも指摘をしておかなければなりません。

さらに、毎年指摘をし続けてきたにもかかわらず、相変わらず特定の同和団体に偏った高過ぎる団体補助金にも反対いたします。

次に、議第 14 号平成 27 年度別府市介護保険事業特別会計予算と議第 33 号介護保険条例の一部改正について反対です。

これは、介護が必要と認定を受けた要支援 1、2 の高齢者を、市の総合事業に移すとともに、介護保険料の基準額を引き、5,567 円から 5,739 円に、172 円、3.09%引き上げ、平成 27 年度予算では介護保険料収入が前年比で約 2 億 2,000 万円ふえると見込んでいます。全体の 47%を占める所得段階 1 段階から 3 段階までの低所得者 1 万 7,179 人の介護保険料も、年間 1,000 円から 1,600 円の値上げとなります。年金が引き下げになり、消費税や物の値段が上がり、生活がますます厳しいという声が深刻な中での介護保険料の値上げには、到底賛成できません。

また、その一方で、要支援者 1、2 の高齢者の訪問介護、通所介護サービスが、介護保険給付から外され、市の総合事業に移されます。これにより要支援者は要介護認定で非該当とされた方と同じ扱いになります。現在、要支援判定を受けている方は、当面これまでと同じサービスが受けられると説明されていますが、将来的には無資格のボランティアによるサービスに置きかえられようとしています。

さらに、今回の国による介護報酬引き下げは、市内にある 530 の介護事業所の経営に打撃を与えることとなりますが、その中でも 120 の事業所は、要支援者の訪問・通所介護を中心にしており、市の総合事業の単価が 20%から 30%引き下げられ、経営への悪影響はより深刻です。

最後に、議第 19 号特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、に反対します。

これは、地方教育行政法の改定により、教育委員長のポストが廃止されたことに伴う条例改正であり、これには教育委員会の独立性、自主性を損なう危険があり反対であること

を申し上げて、反対討論を終わります。（拍手）

○議長（吉富英三郎君） 以上で、通告による討論は終わりました。

これにて、討論を終結いたします。

これより、上程中の議案 20 件について順次採決を行います。

上程中の議第 8 号平成 27 年度別府市一般会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 9 号平成 27 年度別府市国民健康保険事業特別会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 10 号平成 27 年度別府市競輪事業特別会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 12 号平成 27 年度別府市公共下水道事業特別会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 14 号平成 27 年度別府市介護保険事業特別会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 16 号平成 27 年度別府市水道事業会計予算に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 19 号特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決

されました。

次に、議第 33 号別府市介護保険条例の一部改正について、に対する委員長の報告は、原案可決であります。本件については、委員長報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（吉富英三郎君） 起立多数であります。よって、本件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、議第 11 号平成 27 年度別府市公共用地先行取得事業特別会計予算、議第 13 号平成 27 年度別府市地方卸売市場事業特別会計予算、議第 15 号平成 27 年度別府市後期高齢者医療特別会計予算、議第 20 号特別職の常勤職員の給与及び旅費に関する条例等の一部改正についてから、議第 22 号別府市職員の退職手当に関する条例及び別府市立学校職員の退職手当に関する条例の一部改正についてまで、及び議第 24 号別府市手数料条例の一部改正についてから、議第 26 号別府市重要文化的景観整備事業分担金徴収条例の制定についてまで、議第 28 号別府市保育所の設置及び管理に関する条例の一部改正について、及び議第 32 号別府市国民健康保険税条例の一部改正について、並びに議第 42 号別府市水道局企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正についての以上 12 件に対する委員長の報告は、いずれも原案可決であります。以上 12 件については、委員長報告のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、以上 12 件は、委員長報告のとおり可決されました。

次に、日程第 4 により、議第 50 号人権擁護委員の推薦につき議会の意見を求めることについて、を上程議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

（市長・浜田 博君登壇）

○市長（浜田 博君） 御説明いたします。

ただいま上程されました議第 50 号は、人権擁護委員として佐藤久美子氏を推薦したいので、人権擁護委員法第 6 条第 3 項の規定により、議会の意見を求めるものであります。

何とぞ、よろしくお願いいたします。

○議長（吉富英三郎君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） お諮りいたします。別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行います。

上程中の議第 50 号人権擁護委員の推薦につき議会の意見を求めることについては、原案に対し同意を与えることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、議第 50 号は、原案に対し同意を与えることに決定いたしました。

○議長（吉富英三郎君） 次に日程第 5 により、報告第 1 号別府市新型インフルエンザ等対

策行動計画の作成について、及び報告第2号市長専決処分について、以上2件の報告が提出されておりますので、一応当局の説明を求めます。

(副市長・中尾 薫君登壇)

○副市長(中尾 薫君) 御報告いたします。

報告第1号は、新型インフルエンザ等対策特別措置法第8条第1項の規定に基づき、別府市新型インフルエンザ等対策行動計画を作成しましたので、同条第6項の規定により議会に報告するものであります。

報告第2号は、公用車による事故外3件の和解及び損害賠償の額の決定並びに訴え提起前の和解1件について、地方自治法第180条第1項の規定により、市長において専決処分いたしましたので、同条第2項の規定により議会に報告するものであります。

以上、2件につきまして御報告を申し上げます。

○議長(吉富英三郎君) 以上で、当局の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切ります。

ただいまの報告は、議会に対する報告でありますので、御了承願います。

次に、日程第6により、委員会提出議案第1号別府市協働のまちづくり推進条例の制定についてから、委員会提出議案第3号別府市議会議員の政治倫理に関する条例の一部改正についてまで、以上3件を一括上程議題といたします。

委員会提出議案第1号から委員会提出議案第3号まで、提出者から一括して提案理由の説明を求めます。

(行財政・議会改革等推進特別委員会委員長・河野数則 君登壇)

○行財政・議会改革等推進特別委員会委員長・(河野数則 君) ただいま上程されました委員会提出議案3件について、提案理由の説明をさせていただきます。

まず、委員会提出議案第1号別府市協働のまちづくり推進条例の制定についてであります。

本格的な少子高齢化や人口減少の時代を迎え、地域のつながりは低下するとともに、生活スタイルは変化し、多様化・複雑化したニーズに応じる柔軟できめ細やかなサービスが求められるようになりました。しかしながら、地方自治体の財源と人員は限られ、市の公共サービスのみでは、「新たな課題」に対応することが非常に難しくなっております。

別府市においては、市民による自主的な地域社会での取り組みが活発に行われており、市民と市がこれまで以上に連携を深め、対等な関係でよりよい地域づくり、まちづくりを実現するため、地域の特性を生かした「協働のまちづくり」の推進を求めるものであります。

続きまして、委員会提出議案第2号議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正についてでございます。

平成26年人事院勧告及び大分県人事委員会勧告による「給与制度の総合見直し」並びに「特別職の職員の給与に関する法律の一部改正」に伴い、市長は、市長及び副市長の給料の引き下げについて、「別府市特別職報酬等審議会」に諮問いたしました。

これに対し、私たち市議会は、本年1月に会派代表者会議を開会し、議員報酬については、報酬審議会へ諮問せず、議会みずからが見直すことを全会一致で確認をし、以来4回にわたり「行財政・議会改革等推進特別委員会」で審議した結果、最終的に報酬月額を3%減額することで合意したことにより、条例の一部改正を行うものであります。

最後に、委員会提出議案第3号別府市議会議員の政治倫理に関する条例の一部改正についてであります。

私たち別府市議会議員は、地方自治法第92条の2に規定する「兼業禁止」の趣旨を尊

重し、関係企業に対し、市の請負契約、一般物品納入契約、業務委託契約及び指定管理者の指定を辞退させ、市民に疑惑の念を持たれないよう努めなければならない規定を新たに「別府市議会議員の政治倫理に関する条例」に盛り込むことにより、議員の政治倫理のより一層の向上と確立を図り、市民に信頼される議会づくりを推進するものであります。

なお、条例に係る「２親等規制」については、最高裁判所が平成 26 年 5 月 27 日に「議員の職務執行の公正を確保するとともに、議員の職務執行の公正さに対する市民の疑惑や不信を招くような行為の防止を図り、もって議会の公正な運営と市政に対する市民の信頼を確保することにある」から「規制の目的は正当なものといえることができる」として、「議員の地位を失わせるなどの法的な強制力を伴わない限り、合憲」との判断を示していることを申し添えます。

何とぞ、議員各位の御賛同をよろしくお願いいたします。（拍手）

○議長（吉富英三郎君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） お諮りいたします。別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより順次採決を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより順次採決を行います。

上程中の委員会提出議案第 1 号別府市協働のまちづくり推進条例の制定については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、本件は、原案のとおり可決されました。

次に、委員会提出議案第 2 号議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、本件は、原案のとおり可決されました。

次に、委員会提出議案第 3 号別府市議会議員の政治倫理に関する条例の一部改正については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、本件は、原案のとおり可決されました。

○議長（吉富英三郎君） 次に、日程第 7 により、議員提出議案第 1 号別府市議会委員会条例の一部改正についてから、議員提出議案第 3 号憲法違反の集団的自衛権行使の法制化の中止を求める意見書まで、以上 3 件を一括上程議題といたします。

まず、議員提出議案第 1 号について、提出者から提案理由の説明を求めます。

（20 番・永井 正君登壇）

○20 番（永井 正君） ただいま上程されました議員提出議案第 1 号別府市議会委員会条例の一部改正について、提案理由の説明をさせていただきます。

昨年 6 月、教育委員会制度改革を目的とする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、本年 4 月 1 日から施行されることとなりました。

これにより、本年 4 月 1 日または現教育長の任期が終了した日から、現行の教育委員会の委員長と教育長を一本化した「新教育長」が新たに設置され、この「新教育長」が教育

委員会を代表することとなるため、条例の一部改正が必要となるものであります。

何とぞ、議員各位の御賛同をお願いいたします。(拍手)

○議長(吉富英三郎君) 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

お諮りいたします。別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 御異議なしと認めます。よって、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行います。

上程中の議員提出議案第1号については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 御異議なしと認めます。よって、本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議員提出議案第2号について、提出者から提案理由の説明を求めます。

(10番・市原隆生君登壇)

○10番(市原隆生君) 議員提出議案第2号は、お手元に配付しております意見書を読み上げて提案理由の説明にかえさせていただきます。

ドクターヘリの安定的な事業継続に対する支援を求める意見書

現在、ドクターヘリは、全国で36道府県に44機が導入され、医師が救急現場で直ちに医療を開始できる上、搬送時間が短縮されることから、救命率の向上や後遺症の軽減に大きな成果を挙げている。

ドクターヘリの運航経費については、厚生労働省による医療提供体制推進事業費補助金により、運営主体に対して財政支援が図られている。ドクターヘリは、地域によって出動件数や飛行距離に差異が生じることから、補助金の算定に当たっては地域の実態を的確に反映したものとするのが不可欠である。

加えて、平成20年度に約5,600件であった全国のドクターヘリの出動件数は、平成25年度には2万件を超え、著しく増加している。年々増加する出動件数に対して補助金の基準額を適切なものとするようさらなる精査が必要である。

救急医療体制において、ドクターヘリは必要不可欠であり、事業を安全に安定して継続していくためには、実態をよく踏まえた上で、基準額を設定することが求められる。

また、近年、ヘリコプター操縦士の高齢化が進んでおり、国内における操縦士の養成規模が小さいため、今後退職に伴う操縦士不足が事業運営に支障を来すおそれがある。

よって、政府においては、将来にわたってドクターヘリを安定して運用していくために、下記の事項を実施するよう強く要望する。

記

- 1 医療提供体制推進事業費補助金の基準が、事業運営の実態に即したものとなっているかを検証し、算定方法及び基準額の改善を図るとともに、財源の確保に努めること。
- 2 ドクターヘリの安全・安定的な事業継続のために、操縦士を初めとするドクターヘリ運航従事者の育成・確保に対して必要な支援を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年3月23日

大分県別府市議会

内閣総理大臣
総務大臣

厚生労働大臣

国土交通大臣 殿

何とぞ、議員各位の御賛同をお願いいたします。(拍手)

○議長(吉富英三郎君) 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) お諮りいたします。別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 御異議なしと認めます。よって、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行います。

上程中の議員提出議案第2号については、原案のとおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 御異議なしと認めます。よって、本件は、原案のとおり可決されました。

次に、議員提出議案第3号について、提出者から提案理由の説明を求めます。

(15番・平野文活君登壇)

○15番(平野文活君) 議員提出議案第3号は、お手元に配付しております意見書を読み上げて提案理由の説明にかえさせていただきます。

憲法違反の集団的自衛権行使の法制化の中止を求める意見書

安倍首相は、昨年の総選挙の翌日の記者会見で、「今回の選挙はアベノミクス解散でもありましたが、7月1日の閣議決定を踏まえた選挙でもありました。集団的自衛権の一部容認を含めた閣議決定に基づく法整備、これを来年の通常国会で行っていく」と述べました。

この言葉どおり、安倍首相は、2月12日の施政方針演説でも、集団的自衛権行使のための法整備を進めるとして、その翌日から自民・公明による与党協議を開始しました。政府関係者は「自衛隊法や周辺事態法など少なくとも14の法律についての改訂が必要」と説明しており、法案提出は、地方選後の5月の連休明けになると言われています。

安倍首相は、施政方針演説で「この道をさらに力強く前進せよ、これが総選挙で示された国民の意思だ」と語り、あたかも全ての問題で国民から白紙委任を得たかのように振る舞っています。さらに「批判だけをくり返しても何も生まれない」と、異論に耳を傾ける姿勢は全くありません。演説の最後には「憲法改正」まで持ち出して、「戦後以来の大改革」をやり遂げようと呼びかけました。

しかし、自民党の得票は、比例で有権者の17%、選挙区でも24%であり、多数の議席を得たと言っても、それは大政党に有利に民意をゆがめる小選挙区制のもとでの「偽りの多数」にすぎません。2月6日、7日に実施された共同通信の世論調査でも、集団的自衛権の行使関連法案の今通常国会提出について、「妥当だ」は22.8%にすぎず、「そうした法整備は必要ない」が15.6%、「時間をかけるべきだ」は54.9%であり、安倍首相の進める「大改革」については、国民の大多数が疑問の声を上げています。

そもそも閣議決定だけによって集団的自衛権行使を可能にすること自体が憲法違反であり、元自民党幹部からも「立憲主義に反する」「首相の権限を超えている」という批判の声が上がったことは、記憶に新しいところです。

国の安全を守り、紛争事の解決のためには、軍事力ではなく、憲法9条を生かした外交

力こそ抜本的に強化すべきであります。

よって政府においては、集团的自衛権行使の法制化を直ちに中止するよう求めます。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出いたします。

平成 27 年 3 月 23 日

大分県別府市議会

衆議院議長

参議院議長

内閣総理大臣

防衛大臣 殿

何とぞ、議員各位の御賛同をお願いいたします。(拍手)

○議長(吉富英三郎君) 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) お諮りいたします。別に質疑もないようでありますので、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(吉富英三郎君) 御異議なしと認めます。よって、以上で質疑を打ち切り、委員会付託、討論を省略し、これより採決を行います。

上程中の議員提出議案第 3 号については、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長(吉富英三郎君) 起立少数であります。よって、本件は、否決されました。

以上で議事の全てを終了いたしました。ここで、今任期を最後に御勇退されます浜田市長に対し、議会を代表して送別の辞を申し上げます。

浜田市長におかれましては、昭和 54 年に私どもの別府市議会議員に初当選され、市議 2 期 8 年、県議 4 期 16 年、市長 3 期 12 年と、あらゆる政治の舞台で御活躍してこられました。

特に、平成 15 年に第 24 代・別府市長に就任されて以来、常に市民の目線に立った「市民が主役」、「市民と協働」のまちづくりを掲げられ、今日の「住んでよし、訪れてよし」の O N S E N ツーリズムを推進してこられました。

その座右の銘は「花には水、人には愛」。市長として 12 年間に、耕し、種をまき、水をかけてこられた市民と協働のまちづくりが、今、大輪の花を咲かそうとしています。こうした中での御勇退でございます。

浜田市長の 36 年にわたる政治活動に対し、市議会を代表いたしまして、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第であります。

まことにありがとうございました。そして、お疲れさまでございました。

それでは、今期を最後に勇退されます浜田市長から、御挨拶をお願いいたします。

〔市長 挨拶〕

(市長・浜田 博君登壇)

○市長(浜田 博君) ただいま、吉富議長様から市議会を代表いたしまして、心温まる送別のお言葉をいただきました。心から感激しているところでございます。まことにありがとうございました。

御承知のとおり、私は、次期市長選には出馬をせず、みずからの決意で引退する決断をさせていただきました。本日が最後の議会となりますので、この場をお借りいたしまして、

皆様方にお礼の挨拶を申し上げたいと思います。

私は、36年前、教員から政治家への転身を決意し、昭和54年の4月に別府市議会議員として政治家の第一歩を踏み出すことができました。この議場におられます同期は、首藤正議員と泉議員、お二人だけとなってしまいました。市議会議員2期8年、そして県議会議員4期16年、その後、平成15年4月に、市民の皆様方の温かい御支援をいただき別府市長に就任し、以来12年間、昼夜を問わず別府市発展のために邁進してまいりました。

就任直後には、多くの諸課題が山積しておりました。その解決のために全力を尽くす中で、議員の皆様方、そして市民の皆様からは多くの叱咤激励をいただきますとともに、議場におきましては激しく議論をすることもありましたし、また決断まで大変な苦悩の連続でありました。しかし、それぞれの立場はありましたが、お互いにこの別府をよくしよう、日本一の住みやすいまちにしようという、同じ思いであったからこそその議論ではなかったかな、このように思っております。

こういった中で、温泉観光都市である別府の進むべき道として、「住んでよし、訪れてよしのローマ字の O N S E N ツーリズムのまちづくり」を提唱させていただきました。常に市民目線の、市民と協働の市政運営を心がけてまいったつもりであります。これを推し進める中で貴重な御意見を皆様方からいただきました。

また、慎重に御議論いただきました議員の皆様には、深く、深く感謝を申し上げたいと思います。

来月には統一地方選挙が控えております。議員各位におきましては、試練の時期を迎えることになるものと思います。引き続き市政の諸課題に取り組まれる方、なお新たな挑戦をされる方もおられますが、それぞれのステージにおきまして御健闘を心からお祈り申し上げますとともに、これまで培ってこられた見識と経験を生かし御活躍されることを願っております。

私は、来月29日をもって退任することとなります。私が愛する別府のために残された期間はわずかではありますが、最後まで市勢発展のために全力を尽くしてまいりたいと考えております。

議員の皆様には、次期市長とともに少子高齢化、人口減少、地方創生等の市政が直面する諸課題に対しまして、今までと同様に別府市の発展のためにお力添えを賜りますように、心からお願いを申し上げます。

終わりにになりましたが、議員の皆様を初め観光、経済界の全ての団体の皆様、そして自治会関係の皆様、報道関係等の皆様方、そして公民館活動や、また地方の自治発展のために頑張ってくださいました保護司会の皆さん、民生児童委員の皆様方、ボランティアの皆さん方、私は、すべての市民の皆様方に、市長在任中に賜りました御理解と御鞭撻、そして御協力に心から深く感謝を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

12年間、まことにありがとうございました。（拍手）

○議長（吉富英三郎君） 次に、今任期を最後に転身されます議員3名を紹介いたします。

泉武弘議員さん、猿渡久子議員さん、それから私、吉富英三郎であります。

泉武弘議員さんと猿渡久子議員さんにおかれましては、恐れ入りますが、議場中央フロアまでお越しください。

（24番・泉武弘君、12番・猿渡久子君、中央フロアに立つ）

○議長（吉富英三郎君） 泉議員さんにおかれましては、昭和54年に初当選以来、通算8期32年間にわたりまして、行政の各種施策に対する熱心な提言をされるとともに、市民からの要望や意見を市政に反映されることを標榜し、昼夜を分かたず奔走された姿は、皆さん御承知のとおりであります。また、その間、別府市議会の建設水道委員会委員長、観光経済委員会委員長等の要職を歴任されたことも申し添えさせていただきます。

本任期を最後に、市議会議員から別府市の将来の発展に向け、行政に課せられた諸施策実現のため、より高目の道を目指すところに挑戦されると伺っております。

最後に、今後ますますの御健勝・御活躍を期待し、激励とお礼の言葉とさせていただきます。

次に、猿渡久子議員さんにおかれましては、平成 11 年 4 月の統一地方選挙で初当選以来、4 期 16 年間、本当に御苦労さまでございました。

女性としての視点を大いに生かし、市行政にさまざまな施策を提言され、議会活動にも積極的に参画してこられました。特に議会の広報紙の編さん作業に当たっては、編集委員の皆さんの先頭に立ち、さらに議会だよりの事務を担当する職員に多くのお力添えをいただいたことに対して、感謝申し上げます。

また、温泉名人に認定されたことも、皆さんの記憶に刻まれており、この間、数多くの地域住民の皆さんとの融和に努められたことと推察する次第であります。

今回は、次のステップに駆け上がるための準備に向けて努力中とのことであります。

最後に、これからのさらなる御健勝・御多幸を祈念し、お礼の挨拶にかえさせていただきます。

[転身議員挨拶]

○議長（吉富英三郎君） それでは、泉武弘議員さんから御挨拶をお願いいたします。

（24 番・泉 武弘君登壇）

○24 番（泉 武弘君） 多くの人に支えられて、充実した 32 年の議員生活をすることができました。本当にありがたく思っています。

議員を去るに当たって、1 点だけ議員の皆さん、そして職員の皆さんにお願いをさせていただきます。

それは、私の議論の中で終始問題にしています財政問題でございます。中期財政見通しの中でもおわかりのように、平成 30 年度までに基金の不足額が 94 億円、とてつもなく膨大な金額でございます。30 年度には基金枯渇という状況を生んでまいります。これから人口の減少社会の中で税収の大幅な減収、そして、一方では高齢者の増加に伴う社会保障関連費の増加、さらに、別府市では公共施設の改修改築費の増加。どこを見ましても、歳入と歳出の大きな乖離を生んでいます。この事態を乗り切るには、議会だけ、また執行部だけという分けた議論はできません。これから先、議員の皆さんと職員の皆さんが英知を結集されて、この財政危機をぜひとも乗り切っていただきたい。

このことを最後にお願い申し上げまして、私のお礼の言葉にさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（吉富英三郎君） 続いて、猿渡久子議員さんから御挨拶をお願いいたします。

（12 番・猿渡久子君登壇）

○12 番（猿渡久子君） 4 期 16 年間、毎回の議会で一般質問、議案質疑、委員会審査などを通じて、本当にいろいろと勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

1 期目、2 期目のころを思い返しますと、本当に恥ずかしいことばかりでした。本当に未熟で、しかも横着な私に皆さん方から温かい御支援をいただきました。市長や執行部の皆さん、先輩議員の皆さん、そして同僚議員の皆さん、また議会事務局の皆さん初め多くの皆さん方に、心から温かい支えをいただき、いろいろと御指導・御鞭撻をいただきました。そのおかげでここまでやってこられたと、本当に心から感謝をいたしております。本当にありがとうございました。

1 期目のときに議会が紛糾をして、夜間の議会になったことを思い出します。そのときにも、時間を短縮しながらも一般質問をさせていただき、執行部の皆さん初め多くの皆さんにお世話になったことを今思い出しております。

市民の皆さんのお役に立たせていただきたいと、また議員としての役割を果たしていきたいという思いで一生懸命に頑張ってきましたけれども、力不足を感じることも多くありました。今後、またさらに勉強して、一層市民の皆さんのお役に立てるように頑張っていきたいと、県議選への挑戦を決意しております。今後とも御指導・御鞭撻いただきますようによろしく願いを申し上げます。

生まれ育った大好きな別府で市議会議員として仕事をさせていただけたことは、本当に幸せでした。

今後、また市勢の発展と皆様方の御健勝を心より御祈念を申し上げまして、私のお礼の御挨拶とさせていただきます。

本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。(拍手)

○議長（吉富英三郎君） 泉武弘議員さん、猿渡久子議員さんのお二人におかれましては、自席にお戻りください。

（24 番・泉武弘君、12 番・猿渡久子君、自席に着席）

○副議長（穴井宏二君） ここで、吉富議長が御挨拶をいたします。

（13 番・吉富英三郎君登壇）

○13 番（吉富英三郎君） 猿渡議員と同じく、平成 11 年 4 月に別府市会議員に初当選して以来、この 16 年間、少しでも市民の皆様方の福祉、生活の向上というものの一助になればと思い、この議員生活 16 年間頑張ってきました。また、この 2 年間は、市議会を代表する議長の要職も、先輩議員の皆様方、そして同僚議員の皆様方のおかげで、この要職も務めさせていただいておりますが、こうした経験の中で、市が直面している課題、また市域の問題を少しでも早く解決に向かわせるためには、どうしても国や県とのさらなる強いきずな、パイプが必要である、このように強い信念を持つようになったわけでありす。そのため、今回は長らくお世話になりましたこの別府市議会から新しいステージに挑戦することを決意した次第でございます。

16 年にわたり市議会議員の皆様にお世話になり、御指導賜りましたことに対しまして、重ねて感謝を申し上げますとともに、別府市議会のますますの発展を御祈念申し上げまして、お礼の御挨拶とさせていただきます。まことにありがとうございました。(拍手)

最後に、本日御参集の議員の皆様、執行部各位におかれましても、今後とも市民福祉の増進と別府市勢発展のために御活躍されんことを祈念いたしまして、簡単粗辞ではございますが、私の今期最後の議会閉会に当たっての挨拶にかえさせていただきます。

ありがとうございました。(拍手)

（13 番・吉富英三郎君議長席に着く）

○議長（吉富英三郎君） お諮りいたします。以上で平成 27 年第 1 回別府市議会定例会を閉会いたしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（吉富英三郎君） 御異議なしと認めます。よって、以上で平成 27 年第 1 回別府市議会定例会を閉会いたします。今期 4 年間、大変お疲れさまでした。

午前 11 時 34 分 閉会